

報告

第15回長野市環境こどもサミットに出展しました

平成22年（2010年）11月13日（土）に長野市生涯学習センターで「第15回長野市環境こどもサミット」（主催：長野市環境こどもサミット実行委員会）が開催されました。

当所では、「木炭のちから」をテーマに体験コーナーを出展しました。木炭の表面には無数の微細な穴があり、この微細な穴に水分や物質を吸着したり気体・ガスを通したりする性質があり、いろいろな用途に使われています。そこで木炭を利用した次の2つの実験を体験してもらいました。

- ①木炭、アルミホイル、食塩水を含ませたペーパータオルを用いて手作り電池を作成し、ライトを付けたりモーターを回す実験。この実験により、木炭が電極となり、電気が発生することを体験してもらいました。
- ②色素による着色水に活性炭を入れ、かき混ぜた後ろ過をすると、水の色が消え、きれいになる実験。この実験により、木炭は水を浄化する作用に優れていることを理解してもらいました。

たくさんの方々に体験していただき、環境について興味をもっていただけたと思えました。



着色水を浄化する実験

（企画情報課 kanken@pref.nagano.lg.jp）

平成22年度長野県精度管理調査結果検討会

検査分析機関の検査では、正確なデータを迅速に出すことが求められます。そのためには、一定レベルの検査技術の水準を常に確保する必要があります。データの信頼性を確保する一つの取り組みとして精度管理があるといえます。長野県では、検査・分析に関する信頼性の確保と精度の向上を図る目的で、昭和53年（1978年）度から毎年1回、精度管理調査を実施しています。

調査は長野県健康福祉部薬事管理課と当所が共同で主催し実施しています。本年度は、県、市、公社などの公的検査機関及び民間の環境計量証明機関等あわせて52機関に参加していただきました。

本年度の精度管理調査は、例年どおり、微生物・食品・医薬品・環境試料について実施しました。その結果検討会を2月8日に長野市生涯学習センターで開催し、調査結果の説明を行いました。この調査結果を今後の業務に生かしていただくとともに、信頼性確保のため精度管理への一層の取り組みをお願いしたいと思います。

また、検討会に合わせて(独) 国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター主任研究員 山本貴士先生をお招きし、「環境分析における精度管理」と題して特別講演をしていただきました。会場には約80名の方に参加していただきました。



当所の担当者による説明

（企画情報課 kanken@pref.nagano.lg.jp）

編集後記

- 36号をお届けします。
- 本誌は当研究所の活動や、長野県の環境保全及び保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することを目的に発行しています。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

（編集担当：企画総務部 電話：026-227-0354）

次号の予告

次号は5月に発行予定です。

「最近の話題」

「トピックス」等を掲載予定です。